

赤谷プロジェクト近況報告

林野庁長官赤谷プロジェクト視察



「いきもの村」でサポーター活動について説明

8月20日(水)、井出林野庁長官が赤谷プロジェクトの視察に訪れました。長官はかねてより、官民協働の取組である赤谷プロジェクトに強い関心を持っており、今回視察が実現したところです。

当日は、赤谷プロジェクト地域協議会の岡村会長、地元みなかみ町の腰越副町長、(財)日本自然保護協会からは保護プロジェクト部の茅野副部長など赤谷プロジェクトの関係者に多数集まって頂き、当局からは小林局長が同行し、活発な意見交換を行うことができました。

まず、当局から赤谷プロジェクトの概要や茂倉沢の治山事業計画の意義・経緯等について説明した後、「いきもの村」手前で赤谷プロジェクトエリア全体を遠望、「いきもの村」で「赤谷の日」などの取組を通じて、赤

谷プロジェクトを支えているサポーターの方々の活動について説明しました。

岡村会長からは赤谷プロジェクトが生まれた経緯や、赤谷の森の優れた自然環境が今後のエコツーリズムによる地域振興につながっていくことへの期待について説明して頂き、みなかみ町からは地元で展開している赤谷プロジェクトの活動が今後さらに発展していくことを期待する旨お話を頂きました。

さらに、(財)日本自然保護協会からは、生物多様性の保全・復元に取り組んでいく上で、国土の2割を占める国有林をパートナーとすることの重要性、赤谷プロジェクトの先進性などについて説明して頂きました。

今後このような機会を捉え、各方面に赤谷プロジェクトの意義を伝えていきたいと考えております。



赤沢スキー場で赤谷プロジェクトが生まれた経緯について説明

森林生態系スペシャリスト養成研修

森林官等の職員を対象にした平成20年度森林生態系スペシャリスト養成研修の現地研修が8月26日(火)～28日(木)に生物多様性復元に向けた様々な取組が実践されている「赤谷の森」で開催されました。

赤谷センター職員から、赤谷プロジェクトの概要、カラマツ漸伐試験地やスギ人工林間伐試験地における植生復元モニタリング調査などの説明を行い、「そもそも生物多様性の復元はなぜ重要か」などについて、質疑応答がありました。

講師の長島氏からは、旧三国街道沿いのブナ林において、ブロンーブランケの植物社会学的手法による植生調査の説明がありました。

この調査では、20m四方の調査区を設定し、高木層、亜高木層、低木層、草本層ごとに生えている植物種の群度・被度の調査をし、普段は見過ごしている植物の名前を一種づつ同定しました。

(財)日本自然保護協会の辻村氏からは、双眼鏡や望遠鏡の使い方から、外見上の特徴や飛び方などによる猛禽類の見分け方について、実践的な説明がありました。

当日は雨模様で天候の悪く、ノスリ、トビ、オオタカを観察することが出来ましたが、一瞬のシルエットから種類を判別するには、かなりの訓練を積む必要があると感じました。

今後、この研修で学んだことを活かして、森林生態系全体を考えながら森林施業に取り組んで頂ければと思います。



ブナの倒木更新について解説



猛禽類調査の実習の様子